明治29年　東京市中大洪水

この年の東京市中洪水は、大きな反響を呼んだ。洪水氾濫の区域は、東京市中とはいえ、常習的な氾濫地区であって、特徴的ではない。洪水の規模についても、特筆されるほどではない。実際、この後の利根川・中川・江戸川の改修計画では、対象洪水とされていない。それにもかかわらず、大きな関心が寄せられたのは、二つの事項のためである。

その一つは、利根運河の開削であり、他の一つは、足尾鉱毒事件とのかかわりである。

利根運河は、利根川筋田中村船戸から江戸川筋新川村深井新田に至るおよそ8㎞の運河である。この図の北方に当たるところを東西に走り、明治23年に竣工したばかりであった。

運河の開削に当たって最も問題となったのは、運河を流れる水が江戸川から入るのか、それとも利根川から流入するのかということであった。

運河両端の量水標によってその水位を検討した結果は、平均低水位では利根川の水位が江戸川の水位より5寸低く、運河は5万分の1という緩勾配となる。したがって、利根川・江戸川の水位に応じてどのような方向で運河の水が流れるかは定まらない状態であった。

こうした課題を解決する技術的手段は開門の設置であるが、工費が過大となることと、常時通航を妨げることなどのため、検討事項として残したまま開削が実行された。それでも、運河の開削に当たって、開放運河とはいえ、6か所の狭窄部(約1町)を設けて流水量の制限を図り、さらに江戸川右岸埼玉県側の条件に基づき、運河の利根川口に角落し式の水堰を設置した。

明治29年利根川洪水は、江戸川流頭の制限方策により江戸川への分派量が低く抑えられたものの、利根川の増大した洪水は、運河口の水堰を破壊して運河の中に押し入った。その流水は、運河を流れて江戸川口から押し出され、江戸川右岸堤を決壊させた。この氾濫流は、中川筋を襲い、この図に示されるような東京市下へ氾濫した。

この洪水を機に、現代まで、利根運河は利根川洪水を江戸川へ分流する方式が定着し、江戸川右岸堤の強化が実施された。

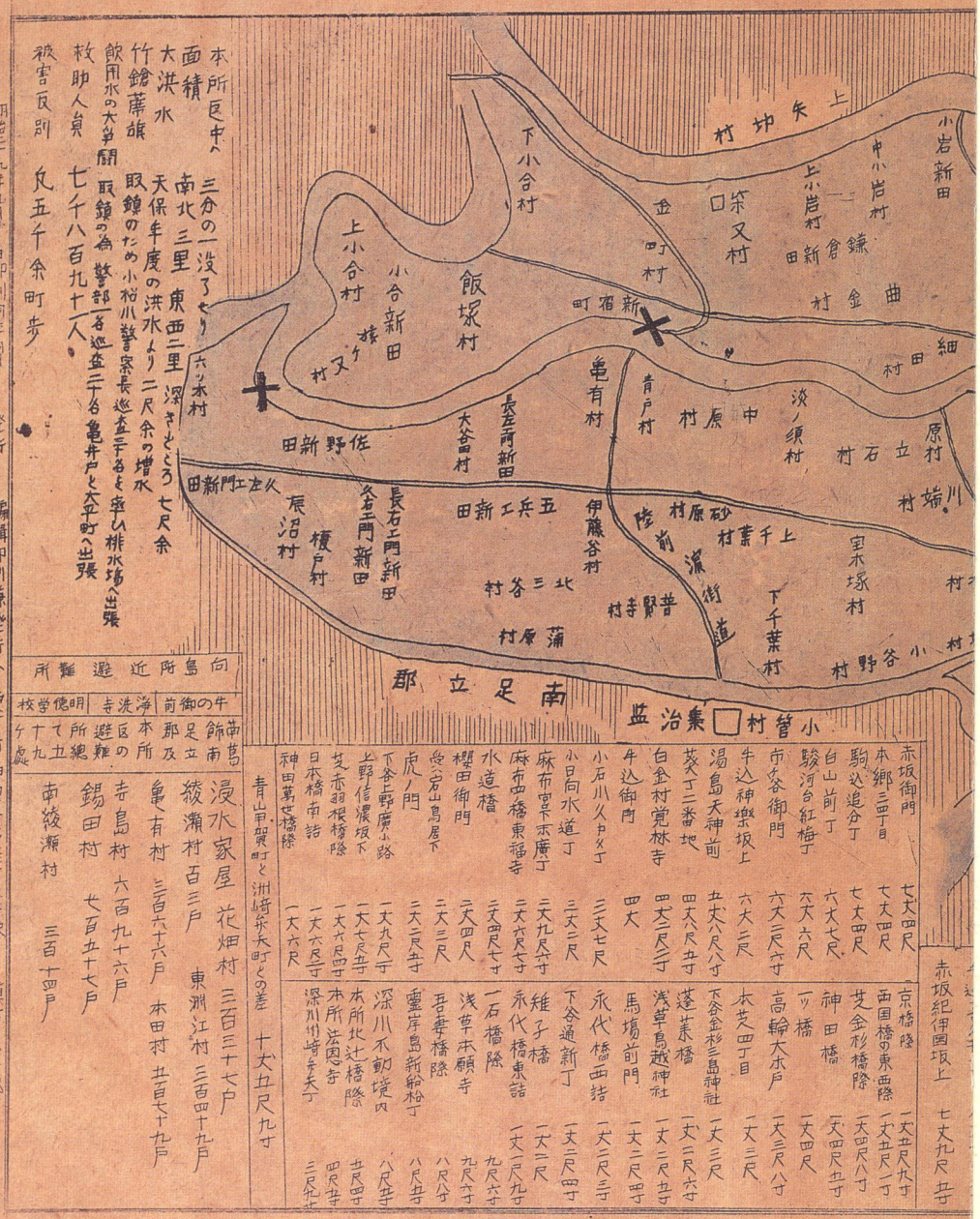
次いで鉱毒事件とのかかわりである。鉱毒問題は、足尾銅山が明治10年古河市兵衛に払い下げられ、本格的な量産開始と同時に発生した。

明治12年ごろから渡良瀬川の魚族が死にはじめ、明治13年には、栃木県令から渡良瀬川の魚の販売ならびに食用を厳禁する通達が発せられた。この鉱毒被害は、渡良瀬川の洪水とともに厳しさを増すこととなり、明治21年の洪水では、渡良瀬川沿川の農作物被害が深刻になった。その範囲も下流へ次第に広がり、明治23年洪水後には、渡良瀬川沿川だけでなく、中利根川沿川、江戸川沿川の村落も連署して鉱業停止の請願を政府に提出した。

田中正造は、第2回帝国議会で鉱毒事件を採り上げ、政府の対策を迫った。田中正造の追求に対して、農商務大臣陸奥宗光は、その答弁書を東京の各新聞に掲載した。その内容は、渡良瀬川沿岸耕地に被害があるのは事実であるが、原因不明で、もっか専門家に調査させており、一方鉱山側は最新の設備を外国から購入して鉱物の流出を防止する準備をしている、ということであった。つまり、鉱毒事件に対する政府の対応はきわめて消極的であった。

ところが、明治29年の洪水は、渡良瀬川を中心とした大出水が利根川に合流し、その洪水が利根運河を経て江戸川の堤防を破堤し、ついに東京市中に氾濫した。鉱毒を含んだ氾濫水が、時の農商務大臣榎本武揚邸をも浸した。鉱毒事件が、渡良瀬川沿岸に限定されていた型から、東京市中までその範囲が広がってしまったことになる。ついに榎本武揚は現地調査に出向いた。鉱毒事件は、この洪水氾濫を機に社会的関心を強め、被害者と政府と企業の熾烈な対応が続くこととなった。

宮村　忠／関東学院大学工学部教授



明治三十九年九月十日印刷同年同月 発行

編輯印刷兼発行人 東京市神田区鱒住丁七番地 植村茂三郎

東京市中大洪水地図／神戸海洋気象台蔵

東京市中大洪水地圖

江戸川
伊勢屋村
下篠崎村
上篠崎村
鹿骨村
笹ヶ崎村
小岩村
伊勢田村
千葉街道
桜本村
奥戸新田
小岩村
河内村
谷
奥戸村
上小松村
上一色村
下小松村
新堀村
小松川村
西
上平井村
中平井村
下平井村
逆井村
篠原村
上木下川村
下木下川村
浜江村
岩宮村
堀
寺嶋村
上大畑村
下大畑村
菖蒲川村
小井村
請地村
隅田村
善左衛門新田
しらひげ水神
長命寺
牛御前
三圏神社
須崎村
小梅村
押上村
橋ひろあ
柳ノ木村
橋らくま
隅田川
東京市内地所の高低
海面より九尺一寸
浅草寺
観世音境内
海面よりの高さ
青山六道辻甲賀丁 十丈九尺八寸
青山南丁四丁目 十丈八尺
四ツ谷御門 十丈二尺四寸
麻布六本木丁 十丈一尺二寸
市ヶ谷八幡 九丈四尺八寸
氷川神社 九丈三尺五寸
平藏門外 九丈二尺六寸
芝愛宕山上 八丈六尺六寸
牛込赤城神社 八丈五尺八寸
田安御門 八丈四尺四寸
市谷藥王寺門前 八丈四尺
牛込寺内丁 八丈三尺五寸
どてのきれたるばしよ
堤防欠壊の印
水を引せるため切剝ばしよ